2 陸前高田市の復興の歩み

人と人とのつながりから生まれるまちおこし

復活

七夕まつりは震災の年の夏に復活

陸前高田市はコミュニティ活動が根付く土地柄。人と人とのつながりを大事にする気風が地域社会を支え、行政や市民、団体・企業・支援自治体などの協働による復興まちづくりに生かされた。七夕まつりは山車を流された町内もあったが、平成23(2011)年夏には早くも開催し、秋の産業まつりも平成24年に復活。また、令和2(2020)年秋には三陸花火大会が開催された。

うごく七夕まつり(平成24年8月)

三陸花火大会(令和2年10月)　提供:(一社)陸前高田市観光物産協会

「奇跡の一本松」保存プロジェクト

震災の津波に耐えた高田松原の「奇跡の一本松」は衰弱が進み、平成24(2012)年5月に枯死が確認された。陸前高田市は復興の象徴として後世に受け継ぐために、一本松に人工的な処理を加え、モニュメントとしての保存を決定。「奇跡の一本松保存募金」を全世界に協力を呼びかけ、募金をもとに保存事業を行った。

「奇跡の一本松」モニュメントの現地設置

「奇跡の一本松」
保存事業完成記念式
(平成25年7月3日)

高田松原海水浴場で11年ぶりの海開き

津波と地盤沈下で砂浜のほとんどが消失した高田松原海水浴場。再生工事や地元NPOなどによる約4万本の松の植樹完了を経て、令和3(2021)年7月、11年ぶりに海開きが行われた。

松の植樹が進んだ高田松原

高田松原海水浴場(令和3年7月)　提供:(一社)陸前高田市観光物産協会

2 陸前高田市の復興の歩み

震災前

震災直後

震災から5年後

震災から10年後

3 陸前高田市の現在

新たな陸前高田らしさができていく

多様な拠点・機能が集まった市街地

かさ上げされた市街地には、多くの店舗や事業所に加え、市民文化会館や博物館、まちづくり情報館などの公共施設が集約され、半径1km以内には復興祈念公園、農業テーマパークなどの特徴的な拠点もできた。中心市街地の北、氷上山山麓の高台にはコミュニティホールが建設され、市役所や消防署、県立病院なども移転。BRTなどの新たな交通網で結ばれ、コンパクトな中心市街地を形成している。

陸前高田市役所新庁舎1階
市民交流スペース

陸前高田市コミュニティホール

陸前高田市民文化会館
「奇跡の一本松ホール」

提供:(一社)陸前高田市観光物産協会

岩手県内初の「SDGs未来都市」に選定

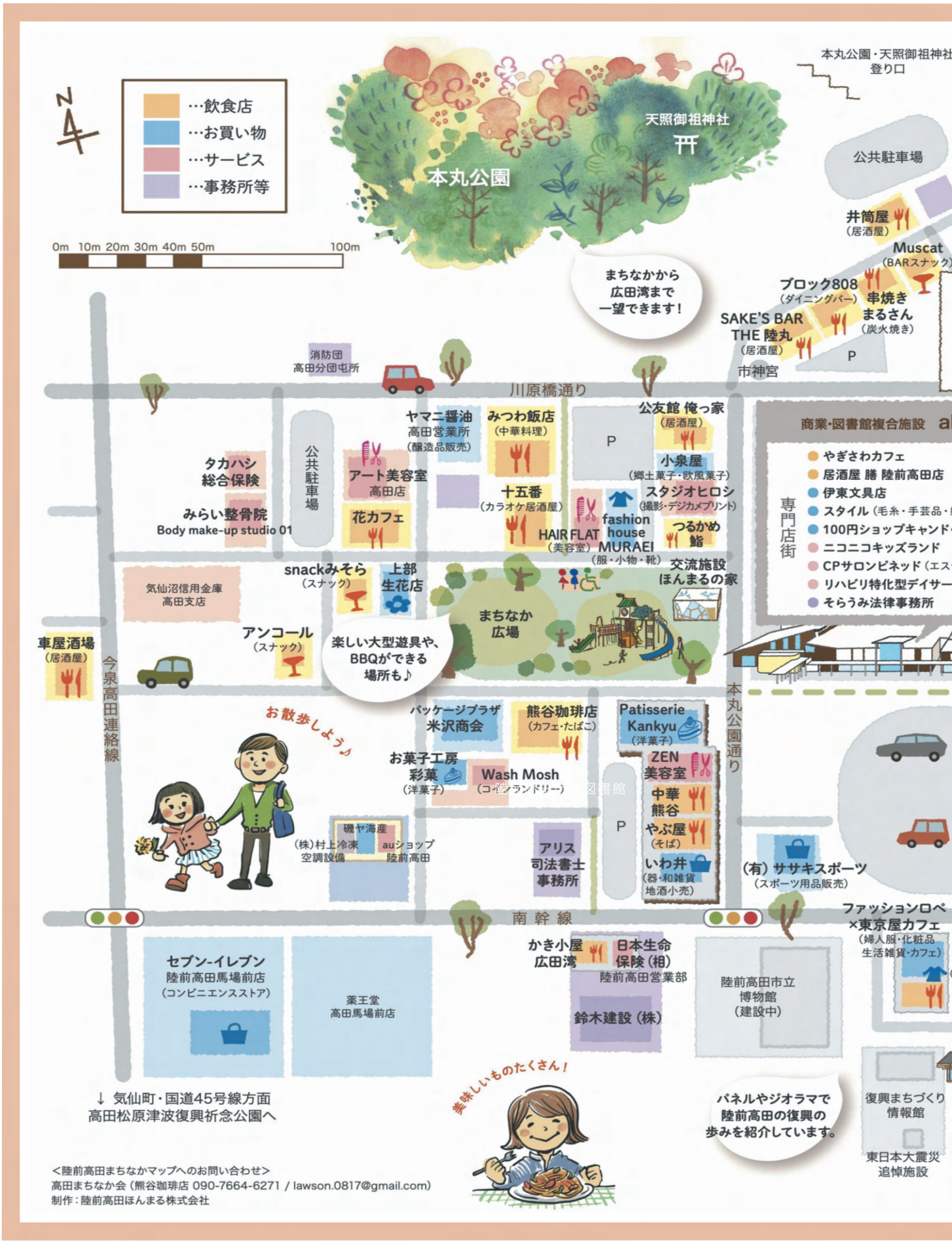
震災で甚大な被害を受け、様々な支援を得ながら復興を進めた陸前高田市。まちづくりの方向性として、「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」を掲げ、誰にでもやさしい共生社会の実現を目指している。この持続可能なまちづくりの姿勢が認められ、岩手県内で初めて「SDGs未来都市」に選定。陸前高田市の自然や文化を後世に残すまちづくりを進めている。

オーガニック農業テーマパーク
「陸前高田ワタミオーガニックランド」

発酵パーク「カモシー」

高田松原運動公園（楽天イーグルス奇跡の一本松球場）

中心街


…飲食店
…お買い物
…サービス
…事務所等
0m 10m 20m 30m 40m 50m 100m
本丸公園
天照御祖神社
本丸公園・天照御祖神社
登り口
公共駐車場
井筒屋
（居酒屋）
Muscat
（BARスナック）
ブロック808
（ダイニングバー）
串焼き
まるさん
（炭火焼き）
SAKE'S BAR
THE 陸丸
（居酒屋）
まちなかから
広田湾まで
一望できます！
消防団
高田分団屯所
川原橋通り
市神宮
ヤマニ醤油
高田営業所
（醸造品販売）
みつわ飯店
（中華料理）
公友館 俺っ家
（居酒屋）
小泉屋
（郷土菓子・欧風菓子）
スタジオヒロシ
（撮影・デジカメプリント）
タカハシ
総合保険
みらい整骨院
Body make-up studio 01
公共駐車場
アート美容室
高田店
花カフェ
十五番
（カラオケ居酒屋）
HAIR FLAT
（美容室）
fashion house MURAEI
（服・小物・靴）
つるかめ
鮨
商業・図書館複合施設
専門店街
やぎさわカフェ
居酒屋 膳 陸前高田店
伊東文具店
スタイル（毛糸・手芸品・
100円ショップキャンド
ニコニコキッズランド
CPサロンピネッド（エス
リハビリ特化型デイサー
そらうみ法律事務所
気仙沼信用金庫
高田支店
snackみそら
（スナック）
上部
生花店
交流施設
ほんまるの家
まちなか
広場
車屋酒場
（居酒屋）
アンコール
（スナック）
楽しい大型遊具や、
BBQができる
場所も♪
今泉高田連絡線
本丸公園通り
お散歩しよう♪
パッケージプラザ
米沢商会
熊谷珈琲店
（カフェ・たばこ）
Patisserie
Kankyu
（洋菓子）
お菓子工房
彩葉
（洋菓子）
Wash Mosh
（コインランドリー）
ZEN
美容室
中華
熊谷
やぶ屋
（そば）
いわ井
（器・和雑貨
地酒小売）
図書館
磯や海産
（株）村上冷凍
空調設備
auショップ
陸前高田
アリス
司法書士
事務所
（有）ササキスポーツ
（スポーツ用品販売）
南幹線
ファッションロペ
×東京屋カフェ
（婦人服・化粧品
生活雑貨・カフェ）
かき小屋
広田湾
日本生命
保険（相）
陸前高田営業部
鈴木建設（株）
陸前高田市立
博物館
（建設中）
セブン-イレブン
陸前高田馬場前店
（コンビニエンスストア）
薬王堂
高田馬場前店
↓ 気仙町・国道45号線方面
高田松原津波復興祈念公園へ
美味しいものたくさん！
パネルやジオラマで
陸前高田の復興の
歩みを紹介しています。
復興まちづくり
情報館
東日本大震災
追悼施設
<陸前高田まちなかマップへのお問い合わせ>
高田まちなか会（熊谷珈琲店 090-7664-6271 / lawson.0817@gmail.com）
制作：陸前高田ほんまる株式会社

＼岩手県／
陸前高田
まちなかマップ
遊びに来てね！
陸前高田市ゆめ大使
たかだのゆめちゃん
2021年2月
改定版
発行：高田まちなか会
旬味旬彩
鮨まつ田
(株)山十
(事務所・倉庫)
高田共立電気
(電気工事)
陸前高田商工会
陸前高田市建設業協会
アクサ生命保険
和食 味彩
スナック新宿
公共駐車場
浄化槽保守点検
スタビール
(事務所・ショールーム)
チャレンジショップ まちなか未来商店街
こんの屋(ラーメン)
高田暮舎(移住定住促進事業)
Studio Chou Chou(フォトスタジオ)
陸前高田ほんまる(株)(まちづくり会社)
・陸前高田市ふるさとハローワーク
・陸前高田まちづくり協働センター
・WILD WEST
・ひころいちファーム
・おいもの日
・ネイルサロン レクラン
・まぁむ たかた
Laugh
岩崎整骨院
デイサービス
いわさき
basse TAKATA(アバッセたかた)
あべや(たい焼き・たこ焼き)
ダイニング&バル さらり
三陸菓匠さいとう高田店
婦人服)
ゥ陸前高田店
菅野音楽教室
テティックサロン)
ビス Reborn(介護事業・フィットネス)
東北労働金庫(ATM)
マイヤ高田店(スーパーマーケット)
ファッションセンターしまむら陸前高田店(衣料専門店)
ツルハドラッグ高田中央店(ドラッグストア)
ドコモショップ陸前高田店(携帯電話販売他)
ママ号アバッセたかた店(クリーニング取次業)
(株)岩手銀行(ATM)
(株)北日本銀行(ATM)
陸前高田市立図書館
MAIYA
陸前高田市民文化会館
奇跡の一本松ホール
駅前通り
公共駐車場
館の沖公園
公共駐車場
川原川公園
四海楼
(中華料理)
荒木
鮮魚店
(株)カネマン
コムーネ高田
セルフSS
(ガソリンスタンド)
佐藤英会話
五學塾
(英会話・学習塾)
三陸おもてなし
レンタカー
大震災で被災した
駅舎を再現。
緑の屋根が目印！
barber-shop
solest
(理容室)
聡明塾
(学習塾)
マツミネ
整体院
各店舗の詳細は
「陸前高田まちなかHP」
takata-machinaka.com
イベント情報や
店主インタビューも掲載♪
観光案内所
JR
陸前高田駅
交通広場
公共駐車場
TAXI
気仙タクシー
アムウェイハウス まちの縁側
陸前高田市観光物産協会
・おやこの広場きらりんきっず
・はびなろカフェ
・くらし応援窓口

3 陸前高田市の現在

市民が想い
来訪者と交流する拠点

高田松原津波復興祈念公園　提供:(一社)陸前高田市観光物産協会

伝承

提供:(一社)陸前高田市観光物産協会

震災犠牲者の追悼・鎮魂、教訓の発信へ

高さ約12.5mの堤防が完成した高田松原付近には、犠牲者を追悼・鎮魂し、震災の教訓を継承する高田松原津波復興祈念公園が整備された。公園内には追悼・祈念施設、東日本大震災津波伝承館、道の駅高田松原などが、観光や交流の場として中心街と一体となり、にぎわいの再生を担っている。また、パークガイドが高田松原津波復興祈念公園内や震災遺構を案内し、来訪者に震災の記憶を伝えている。

東日本大震災津波伝承館

道の駅高田松原

提供:(一社)陸前高田市観光物産協会

震災遺構「奇跡の一本松」

震災遺構「タピック45(旧道の駅高田松原)」

震災遺構「陸前高田ユースホステル」

震災遺構「気仙中学校」

気仙地方に伝わる大工の建築技法を伝える
「気仙大工左官伝承館」

提供:(一社)陸前高田市観光物産協会

阪神・淡路大震災のモニュメントから分灯された
「3.11希望の灯り」

提供:(一社)陸前高田市観光物産協会

4 陸前高田市の特産品

海と緑と太陽の恵みを生かす自慢の品

三陸の海の幸とブランド米開発

三陸沖は親潮と黒潮が出会う格好の漁場。2つの半島にはさまれた穏やかな広田湾には、気仙川から栄養分たっぷりの水が注ぎ込む。それらの恵みを生かし、カキやホタテなど海産物の養殖などの水産業や漁業が震災前からの活気を取り戻している。また、津波で被害を受けた農業においても、オリジナルブランド米「たかたのゆめ」を世に出した。

時間をかけて育ったカキ
提供:(一社)陸前高田市観光物産協会

広田湾名物のホタテ
提供:(一社)陸前高田市観光物産協会

太陽と潮風を受けたリンゴ
提供:(一社)陸前高田市観光物産協会

北限のゆず
提供:(一社)陸前高田市観光物産協会

提供:(一社)陸前高田市観光物産協会

復興と地域活性化への想いを込めて

地元の飲食店などが、新しい名物料理をと共同開発したのが、「ホタワカ御膳（陸前高田ホタテとワカメの炙りしゃぶしゃぶ御膳）」。広田湾産の活ホタテやワカメ、ブランド米「たかたのゆめ」など、特産品の魅力を集めた御膳を、地元の職人の手で作られた名産の「気仙杉」の盆に乗せ、ご当地グルメとして提供している。「たかたのゆめ」と同様に、震災からの復興と地域活性化の想いを広く伝えている。

奇跡的に見つかった震災前のもろみで仕込んだ「奇跡の醤（ひしお）」
提供：八木澤商店

マスカットサイダー（神田葡萄園）
提供：(一社)陸前高田市観光物産協会

オリジナルブランド米「たかたのゆめ」
提供：(一社)陸前高田市観光物産協会

「ホタワカ御膳」
提供：(一社)陸前高田市観光物産協会

名古屋市民へのメッセージ

津波で工場を流されたが翌年に再建 三陸の海の幸に合う酒を目指している

弊社は東日本大震災の津波で工場が流され、機械や原酒がすべて流出し、また社員も犠牲になるなど甚大な被害を受けました。震災直後は事業を再開する気力もわきませんでしたが、仲間たちから励まされるなかで、事業の再開を目指していくこととしました。再開直後は、蔵を借りて運営しておりましたが、震災から1年5か月後の平成24年8月には新たな酒蔵を再建し、新工場にて仕込みを開始することができました。震災を受けてすごく大変な想いをしましたが、この辛い気持ちは我々で最後にして、これからは若い人たちにがんばっていってもらい、まちが発展していくことを願います。

また、名古屋市民の方々には弊社の基盤である陸前高田市に対し、いつもご配慮いただき感謝の気持ちでいっぱいです。三陸の海の恵みをいただける土地柄でもあり、弊社は魚料理に合う酒を目指しております。ご堪能いただけましたら幸いです。

火入れをしない生のにごり酒の原酒、とろりとした口当たりのよさが特徴。

活性原酒 雪っこ
提供：酔仙酒造

米の旨味と酸味、ふくらみが調和した濃醇辛口、冷や・常温・お燗それぞれで味わいが楽しめる。

酔仙 純米酒
提供：酔仙酒造

酔仙酒造

金野 連 さん
㊨ 酔仙酒造株式会社 代表取締役社長

金野泰明 さん
㊧ 杜氏兼醸造課長

名古屋市民へのメッセージ

陸前高田市長
戸羽 太 さん

陸前高田市 ゆめ大使
たかたのゆめちゃん
© AidTAKATA

プロフィール

頭の星は希望の光で満ちていて、子どもたちを安全なところへ導く。背中の羽根で自由に飛び回り、椿の花のバッグの中に入っている夢・幸せをみんなに届ける。耳は高田松原の松をイメージしている。

支援から交流へ広がった名古屋市との絆
出会いで得た希望と可能性を生かしていく

希望がなくては前に進めない

あのとき、市民はみんな絶望の中にいました。家族を亡くし家を失い、下を向いて泣いている状態のとき、行方不明者の捜索だけでは前を向けません。高台の木を伐って平らに整地することで、目に見える形で一歩復興に向けて動き出したぞというサインを出そうと考えました。がんばれば大丈夫だ、前に進もうという気持ちを持ってもらいたい。生きる希望をどうつないでいくかが、我われの仕事でした。

名古屋市職員が来てくれて元気が出た

そのようなときに名古屋市の職員が来てくれました。トイレが穴掘りで、襖を立てて壁にし、用足しのあとは石灰をまいて使っていたときに、女性の保健師も来てくれたのです。名古屋のような大きな市が支援してくれると聞いて、市民はみんな漁師も農業の人も事業者も元気が出ました。避難所にいる子どもたちも顔が明るくなりました。自分たちだけで復旧や復興をやろうというのは、そう簡単なことではない。それは市民もわかっていました。名古屋市の職員さんたちとは仲間になりました。そして、その関係が子どもたちの交流や経済交流、市民交流などさまざまな分野に広がっています。これは大きな社会実験です。絆というのはそう簡単なものではないけれど、名古屋市と陸前高田市の間にはあると思います。

復興で前よりいいまちにする

もともと陸前高田市は課題先進地と言われる地域です。高齢化率も高く、大学がないので若者は外に出ることが多い。課題がたくさんあった地域だから、元に戻す復旧でなく、元より良くする復興で前よりずっといいまちにしようと職員といつも話をしています。名古屋市との出会いがあって、希望と可能性をいただきました。この可能性をちゃんとした形にしてこそ、復興です。住むところができた、まちが整備されたというだけでなく、あの時の悲しさや辛さを乗り越えてみんなでがんばった、みんなの力を借りて本当に良い形になったねと思ってもらえたら、復興と言えるでしょう。あと10年はかかるでしょうが、子どもたちのために、もっとこういうまちにしたいとの夢を描き、着実に形にしていきます。